

2011年5月2日

地区ガバナー各位

地区内会長各位

ガバナー会

議長 上野 操

東日本大震災支援検討委員会

委員長 織田 吉郎

ガバナー会にお寄せいただいた義援金の集計報告と今後の支援方針について

前略

このたびは、東日本大震災義援金のご支援をお願い致しましたところ、多くの地区クラブ会員の皆様のご理解とご協力をいただき、その金額は5月2日正午現在、約7億8千万円（別紙一覧表の通り）となっております。心から御礼を申し上げます。

日本全地区34名のガバナーによって構成されておりますガバナー会では、大震災発生後、これまで議長・副議長を中心とした会合を2回と全体会議を2回、ガバナー会で立ち上げた「東日本大震災支援検討委員会」1回を開催し、皆様からの義援金のロータリーらしい使途について、関東大震災・阪神淡路大震災・中越地震のとき先人ロータリアン達が実践したロータリーらしい支援活動に学びながら、真剣な議論を重ねてきました。

とりあえずその中間報告をさせていただきます。

ロータリーらしい支援活動とは、①公正にして、②建設的であり、なお且つ③温かいプログラムであること、という視点から次の2本の柱を設定し鋭意検討を進めております。

(1)	災害遺児の教育環境支援プログラム	中学・高校・大学・専門学校生への奨学金支援
(2)	ファイブ・フォー・ワン・クラブプログラム	非被災5クラブが1つのグループを作り、被災1クラブを物心両面で支えるプログラムの展開

これらの活動を展開するにあたっては、インターアクト、ローターアクト、RYLAの新世代プログラムとカウンセラー、ホストクラブ等ロータリー既存の制度を最大限活用して、災害遺児とその家族にあたたかく寄り添えるようなプログラムにしたいと考えております。

年度内には、より具体的な支援内容をご提示できるものと思います。

災害遺児は4月22日現在524人で、今後増加が見込まれます。また、被災地区では相当数のクラブが現在例会を開けない状況下にあります。

この2本柱のプログラムの推進には複数年にわたる皆様のご支援が必要となります。

皆様のご協力を頂きながらできる限りの支援の手を差しのべてゆきたいと願っています。

なお、本年度内での義援金の集計・締切りは下記のように予定しておりますので、今後ともよろしくご協力のほどお願い致します。

- 1) 5月20日（金）：一旦実績を集計します。
- 2) 6月20日（月）：2010-11年度最後の締切りといたします。

草々